

○自入漢封雲中郡夫人。

唐に入りしことの何年なるやは後に述ぶる所に譲るべし。

○父天上得果報天男突厥聖天骨咄祿默啜大可汗。

此の名は既に陸心源の説けるが如く、通鑑開元二年の條にも見え、又た冊府元龜にも「開元二年四月辛巳、突厥可汗遣使上表求婚、自稱曰乾和永清大駙馬天上得報天男突厥聖天骨咄祿可汗」と見ゆ(卷九百七十九、和親二)此の使を送りたるものは即ち默啜にして、こゝに記せる稱號と全く相一致せり、此の天上得果報天男の語は、もとより突厥語を漢譯したるものにして、當時の可汗の稱號は多くは其の音を寫せるに過ぎざる間にありて、一箇の珍らしき例といふ可く、前出賢力なる譯語と共に、甚だ有益なる資料と云はざる可らず、蓋し突厥碑文及び唐書に見ゆる突厥可汗の稱號は、之を回鶻碑文に見ゆるものと對比する時は、甚だ省略せる跡ありて、僅かに毗伽可汗、骨咄祿可汗等簡單なるものを認むるのみ、然るに此の墓誌及び通鑑、冊府元龜等に見ゆる、默啜の稱號より考がふれば、突厥にてもまた回鶻と同様甚だ長き尊稱のありしを知るべし、今此の譯語より其の原語を求むれば、

天上得は「天上より得たる」の意にして、「天上」は *tängri*、「より」は *ad*、「得たる」は前述の如く *bulmis* の語を當つべく、彼の回鶻碑文に「登里囉沒密施」と見ゆるのは即ち之れなり、

果報は思ふに「幸運を有せる」といふ程の意なるべく、回鶻語の佛典に妙吉祥菩薩の吉祥を *qutlug* と譯し、また「幸福なる」を同語にて譯せる例より考がふれば、まさに此の語を當つべく、即ち回鶻碑文の汨咄祿(また骨咄